

林業相談

カラマツハラアカハバチの生態と防除

問 昭和52年9月はじめ、苫小牧市市有林のカラマツ造林地20haがカラマツハラアカハバチと
思われる害虫のために、丸坊主にされていることがわかりました。林内に入ると幼虫が葉を
食べている音が聞え、糞が雨のように落ちていました。また幹を伝って地上に下りる幼虫も
多かったので、地面を掘ってみると新しいまゆが沢山出てきました。このハバチの生態や防
除法をお知らせ下さい (苫小牧市役所環境部自然保護課)

答 幼虫やまゆを調べたところ、間違いなくカラマツハラアカハバチです。成虫の腹部の中央
が赤褐色なので、この名前があります。幼虫は長さ2cm近くになり、頭は黒、体は背の部分
が濃い灰緑色、腹部は白っぽい色をしているので、ほかのハバチと区別できます(写真参照)
(カラマツに多いもう1種のハバチ、カラマツキハラハバチの幼虫は頭が黄褐色、体は全体
が淡緑色です)。まゆは長さ約1cm、濃褐色です。

このハバチは分布が非常に広く、日本、シベ
リアからヨーロッパにかけて、さらに北米にも
分布しています。つまりカラマツ属の分布と一
致していて、カラマツ類ならどんな樹種でも食
べます。とくにカナダではカラマツの大害虫と
して有名で、毎年のように大面積に発生しては
カラマツを枯らしています。しかしシベリアや
ヨーロッパでは、大発生することは多くないよ
うです。



カラマツハラアカハバチのまゆと
その中からとり出した幼虫

では一体、北海道での発生はどうだったのか、ちょっと調べてみました。最初の記録は昭
和7-8年に、当時の新冠御料地のカラマツ林160haに大発生したときのものです。帝室林野
局の岡元得一氏が詳しい報告を出しています。昭和11年前後には上川で5カ所、合計80haが
激害をうけました。このほか、日高、十勝、釧路、石狩、渡島でも発生があったそうですが、
被害面積などの記録はないようです。これ以降の発生記録は次の通りです。

- 昭和27年 岩見沢30~40年生 120ha, 余市
 // 36年 (前後3~4年つづく) 和寒 数10ha 一部枯死
 // 42年 釧路, 足寄 37ha
 // 43年 阿寒 6ha
 // 44年 標茶 12年生 2ha
 // 45年 層雲峡大学平 約10年生 0.1ha
 // 52年 苫小牧市 25年生 128ha, 厚真町 1ha

以上の記録には、別の種類のハバチによる被害も含まれているかもしれませんが、いずれにせよ北海道では、昭和初期のものを除けば、小規模な発生が単発的にあったに過ぎないことがわかります。

次に生活史ですが、残念ながら生活史を詳しく調べて報告した人は前述の岡元得一氏だけです。これによりますと、発生は年1回、地中のまゆの中で幼虫のまま越冬し、6月に蛹化、成虫は6月中・下旬に出現してカラマツ新梢内に列状に産卵します。1週間ほどで孵化した幼虫は集団で葉を食べて大きくなり、7月下旬から8月上旬に幹を伝って地上におり、腐植層内でまゆを作って越冬ということになります。

以上の生活史をみて少し気になるのは、今度の苫小牧での加害時期が1カ月もおそいことです。その年の気候による違いにしては差が大きすぎますが、外国では成虫の羽化時期が2カ月も続くことが普通だそうですし、昭和11年の上川の発生地でも、8—9月にも成虫を見かけたそうですから、このハバチでは発生時期が大きくずれることは、それほど珍らしくないのかもしれませんが、これは今後よく調べておく必要があります。幼虫の加害が今度のように9月はじめまで続くと、カラマツが枯死してしまう危険が増すからです。

これまでは、カラマツが食葉性害虫——マイマイガ、オオチャバネフユエダシヤク、オオスジコガネなど——によって丸坊主にされても、すぐ新葉を出して回復し、ほとんど枯れることがないため、農薬による防除はなるべく控えるようにしてきました。しかし、昭和51年に網走地方にミスジツマキリエダシヤクという害虫がはじめて大発生し、たった1回の加害でカラマツを枯らしてしまいました。というのは、このシヤクガは8月末まで加害するので、9月になってからカラマツが新葉を出しても、寒さがやってくる前に、冬芽形成などの越冬準備をととのえることができないからでしょう。(上にあげたマイマイガなどは、おそくとも7月中には加害が終わってしまいます)。今度のハバチによる被害は、このミスジツマキリエダシヤクの被害とそっくりです。したがって農薬を使って防除の方が安全ということになります。

残念ながら苫小牧では防除の時期を逸してしまいましたが、今後このハバチが発生した場合、摂食中の幼虫の大きさや数から、8月に丸坊主になりそうと判断したときは(このような予察は非常にむずかしいことですが)、できるだけ早く、スミチオンかディブテックスの粉剤で防除するのがよいでしょう。

北海道では、カラマツハラアカハバチの発生はたまにあるだけで、その規模も小さいということを最初に述べました。しかしこのハバチには、樹高の高い林分ほど好むという性質がありますから、現在の大面積のカラマツ林が生長するにつれ、もっと規模の大きな発生が時々おきるようになる恐れがあります。こうなれば、マイマイガ以上に、防除に気を配らなければならぬでしょう。

(昆虫野兎鼠科 上條 一昭)